

2025(令和7)年

2月号

花粉に罪はないけれど
花粉が憎い。こめんサイ

shin koh

心耕

しんこう

西光寺々報

今月の行事

十二日(水)はじめの一步

午後一時～ 仏教以前の宗教

二十三日(日)日曜法座

午後一時～ 法話・住取

写経会 十四日(金)

午後一時～ 今年初!

勉強会 壮年会(吾) 午後四時

婦人会(百) 午前十時

寺カフエ 十六日(日)

午前十時～ 「認知症サポーター養成講座」

ヨガ 毎週火曜

午後一時～ 一度やってみませんか

お朝事 毎朝六時半

丁度終ある頃に明るくなります

門信徒会費納入録変更

通信費削減の為、来年度分より、ハガキサ

イズに変更、できるだけ心耕に同封させていただきます。

昭和三十八年十一月九日、三池

炭鉱で炭塵爆発が起きた、

多くの人が二酸化炭素中毒で

亡くなり、後遺症が残った。神

経機能マシの患者を取材した

番組を見て、吉野弘氏は詩にした。

「療養所の一室で塚本さん

は言語機能の訓練を受けている。

文字を書いた紙を二枚選ひ言葉

にする。塚本さんは「豊かにする

を選ひ、「苦勞」を選んだ。」

普通であれは「暮らし」や「生活

を」とするだろうが塚本さんは「苦

勞」を選んだ。事故の起きた

大牟田市は浄土真宗のお寺が

多く、西光寺でもお身の方は多

くと、お方を典拠にする。お仏の語

法座案内

十二日(水) 午後一時～

はじめの一步 第三回

仏教の基礎を学んでいます。今回は、仏教以前のインドの宗教。そして正信偈の読み方です。登録されていない方も是非御参加ください。

二十三日(日) 午後一時～

日曜法座

「名号」は 私たちの地獄に響く 阿弥陀のいのち
今月の法語カレンダーから住職が法話をします。

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半～七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

冬期休暇。三月から再開です

・写経会

十四日(金) 十三時～十五時 どなたでも

・壮年会・婦人会主催の勉強会

壮年会 五日(水) 十六時～ 三月は五日
婦人会 十二日(水) 十時～

・Youtube 西光寺チャンネル更新

仏教アニメ「逆襲の長生(前)」を配信・他にも紙芝居やアニメ、読経を上げています。QRからどうぞ！

・はじめのEガ

毎週火曜日 十三時～ 毎回千円
ヨガマット持参 予約不要



・みんなの寺カフェ

みんなの寺カフェ 西光寺
認知症サポーター養成講座

10:00～12:30
会場: 大人500円
子ども(18歳未満)無料
予約制: 2/15締切 *昼食付
場所: 西光寺(山崎市泉0723-1)
連絡先: 0436-22-7412
or公式LINE
主催: みんなの寺カフェ
共催: 西光寺

2/16(H)

認知症の方への対処、支援を知ろう
内容 「認知症サポーター養成講座」
講師 地域包括支援センター
こくぶんじ台さん

日時 十六日(日) 十時～十二時半
昼食付 大人五〇〇円 子ども無料
予約制 お寺まで 締切 十五日

・探しています！四月三十日振込の方！
四月三十日に、国分寺台西郵便局にて振り込まれた方で、氏名が無記名の方がおられました。記名の方は既に受領証をお届けしています。未到着の方は連絡を下さい

求聞持法

浄土真宗には
ない修行法では
ありますが、私

が、この能力は欲しいと感ずる能力ではありませんのでご
紹介させていただきます。

求聞持法とは聞持を求めると法で、聞き見て知ったこと
を持ち続ける方です。知ったことを忘れないということ
です。本当にほしい能力です。平安時代の官吏採用試験
を受ける学生たちには記憶力増進法として知られてい
たようです。空海さんも若い時に行っていた行というこ
とで、真言宗などで現在でも残っている修行法です。

修行法は虚空蔵菩薩を本尊として、その前で虚空蔵
菩薩の真言を唱えるというものです。虚空蔵菩薩である
理由は、虚空がすべてを蔵するというところで、あらゆる
智慧や慈悲を蓄えるということと本尊とされています。
真言を唱えるといつてもその量は生半可ではありません
ん。一日一万遍を百日行います。その間の生活も大変質



素という言葉では言い表すことはできません。命を落と
す者もいたほどです。
簡単に私の力で得るものはないので
す。日々の地道な積み重ねなのです。

「この一」で
「止まれ」と書いて
「止」になる

依私

こんなところに 仏教用語

用て
教して
仏紹介
な紹
近を
身語
をい
ます。

旧訳新訳



仏教を学ぶ上でややこしいのが、同じ物事を表すのに違う
言葉であることがたくさんあるということです。浄土真宗の
ご本尊阿彌陀如来にしても、阿彌陀如来、無量寿如来、
不可思議光如来と様々です。これは、古インド語のアミターを
音写した阿彌陀と意味を訳した無量寿・不可思議光があるから
です。

日本の仏教は、インドから中国に渡り、中国で漢字に変換さ
れたものが伝わっています。漢字に変換するのにも色々あつ
て、音をそのまま漢字にあてはめたもの。意味で翻訳したもの
があります。たとえば南無は、元の原語のナマスを当てはめた
もの。これを意味で翻訳すると帰命となります。

音や意味の違いがあるにも関わらず、さらに翻訳の時代によ
っても変わります。極楽と安楽、衆生と有情。区分としては西
遊記の三蔵法師のモデルとなった玄奘から新訳とよび、
鳩摩羅什から新訳までを旧訳とよび、それ以前を古訳といいま
す。それにより同じ仏や人物でも言い方が変わ
るので、学ぶのは難しいですが、また面白いの
です。

光明無量・寿命無量 『大経』三十三

十二願と十三願などが成就します。『阿弥陀経』にも「何で阿弥陀と言うのか」の質問に「光明無量で寿命無量だからです」と答えています。また漢文に依るものには見当たりませんが、サンスクリット語版『大経』では初めに帰敬偈が「・・・光明無量なる者に礼拝し奉る。寿命無量なる者に礼拝し奉る。・・・」とあり、次に「如是我聞」と始まります。中国人がアミターバ・アミターブスを合体させて「阿弥陀仏」と号したようです。

阿弥陀仏を「最尊第一」と無極尊である事を示し、「諸仏の光明が及ぶことなし」と調整熟達を願し、「十方の仏利を照らす」と破闇闇を破るすることを語ります。続いて時間的に無量光仏、空間的に無辺光仏、根本として無碍光仏を掲げ、その働きを示し最後に比喻たとえをもって超日月光仏と十二光仏を列挙します。『浄土和讃』の最初に阿弥陀仏を讃え2く13.首目まで十二光を讃えています。そして「この光に遇うものは三垢消滅し身心柔軟ニウナン・・・・一切群生蒙照光みな解脱を蒙る」と三十三願が成就します。この御文の中で「もし三途勤苦の処にありてこの光明を見たてまつれば」とあり、親鸞聖人は「地獄一定すみかぞかし」と自己の自覚の中に於いてこの光明念仏を見いだし、常の

仰せに「親鸞一人が為なりけり」と十二光に照らされたことを味わっておられます。

そして「ただ我のみ今その光明を称するにあらず。一切の諸仏声聞縁覚菩薩衆悉く共に歎たんよする・・・」と十七願が成就します。『阿弥陀経』の六方段です。また諸々の衆生も光明の話を聞いて共に歎念仏してその功德を称するのです。共に一緒が大切です。ここが十八願成就に繋がるころです。十七願成就はもう一度出てきます。ここでは省略します。

続いて「無量寿仏は寿命長久にして称計しょうけいすべからず」と十三願が成就します。その次に「みな人身を得て」とあります。仏の説法は人間の言葉です。色々な生き物はそれぞれぞれの種による言語を持っているようです。人間同士の翻訳機は有りますが他の動物との意思疎通する翻訳はまだ無いようです。人間語を聞かなければ仏法を理解できないのです。人身受け難がたし仏法聞き難しです。人間として生れた今仏法を聴聞するようになるのです。

この後、浄土に生まれた衆生は自分の寿命往相還相の長短を選ばできますよと十五願が成就し、浄土には声聞菩薩衆が多く訪れて数えることができないと十四願が成就します。インバウンドの観光地のようなです。

住職多感

新年、京都・本願寺の御正忌報恩講に坊守とお参りしてきた。街でタクシーに乗った折、「今年は穏やかな年明けでよかったですわ」と運転手から声をかけられ「そうですね」と相槌を打った。去年、年明け早々のことを誰しもが憶えているのだ。穏やかであってほしいと思う。そうはいかないのがこの世であることは十分承知していても穏やかであってほしい。

本願寺に隣接する間法会館の総会所で、ギターを抱えた女性僧侶が歌っていた。

世の中安穩なれ 仏法広まれ
御開山親鸞聖人の言葉である。

兵牙無用 兵隊も武器もいらぬ
無量寿経の言葉である。

歌には夫々多くの台詞が続ぎ、関西弁の柔らかな法話と共に、総会所から溢れる聴衆を包み込んでいた。

これからの一年、仏教（お釈迦さまが語

られたこと）・浄土真宗（親鸞聖人が語られたこと）、そして無数の其の語られたことを喜んだ人々のことを伝えていきたいと思う。その入り口が「ナンマンダブナマンダブ」、口元に折に触れ称えさせていたただくことである。人に聞こえない呟きでもいい。自分の耳にしか届かない囁きでもいい。どんな声でも構わない。とにかくお念仏を称えてほしい。何故かということはいくらでも話をします。それが私の仕事ですから。

四月をめどに、今までに書いた、そして今書いている途中の『契特』の話を始めていきたいと考えている。一日・十六日の御晨朝の後、朝八時から九時半くらいまで。この世の命の続く限り続けていきたいと思っている。何のために生きているのか、私に付き合ってもらえば自ずとわかってくる、そういうお座を作り上げたいと思っている。なんまんだぶなまんだぶ

三月の行事

- 五日 勉強会
- 十二日 はじめの一步
- 十四日 写経会
- 十九～二十一日 彼岸会
- 三十日 寺カフェ
- ヨガ 毎週火曜
- お朝事 毎朝

発行

浄土真宗本願寺派(西)
西光寺

〒二九〇一〇〇二四
千葉県市原市根田

七二三一一



TEL : 0436-22-7412
FAX : 0436-24-1652
HP : <https://www.saikohji.net>
MAIL : saikohji@saikohji.net